

市民の風 通信

2016年 夏 号 (季刊発行)

定価1部 100円

会員・賛同者の購読料は賛同金等を含む

戦争させない北海道をつくる市民の会／安保法制廃止と立憲主義の回復をめざす市民の風・北海道 合同事務局

連絡先 〒061-2273 札幌市南区豊滝2丁目9-6 小林方

[メール] 1-siminmado@freeml.com [電話] 090-2070-4423(事務局 小林) [FAX] 011-596-5848

目標はいつも「誰ひとりおいてきぼりにしない」

市民と野党共闘の力を示し、
全国にその可能性と希望をもたらしたが …

池田 まき

北海道五区補選では、初めての野党共闘の選挙、それはネットワーク型への転換への挑戦でした。「戦争させない北海道をつくる市民の会」から、私、池田真紀に出馬要請をいただいたのが2015年12月9日、民進党北海道（当時は民主党北海道）は12月11日、出馬決意表明が12月19日、市民の会・共産党・民進党・池田まきの4者による共闘が2月19日、市民連合の調印が3月20日、そこからやっとスタートだったように思います。

投票日の4月24日までの約1か月。衆議院選挙で無所属の場合、告示後の広報力には大きなハンディがあり、それまでが勝負という矛盾の中での政治活動に、市民が初めて挑んだ闘いでした。この選挙戦を通しての一連のプロセスそのものが民主主義であり、その実践を通して民主主義が実証されたのではないのでしょうか。

当選こそかなわなかったものの、市民の力、野党共闘の力を示し、全国にその可能性と希望をもたらしました。市民選挙と市民政治を考え、民主主義を問う材料として、



私たちの経験は大きな学びでもあり、次に繋げていく力にもしたいと思います。

現政権は一部の市民だけで政治を行い、それにより多くの市民は排除されて



いる、市民は分断されています。そういう中で、市民が政党を諦める、政治を諦める、そんな構図を変えたいのです。

「政党の考えは、市民の声とかけ離れているよ」「政治は市民の実態とかけ離れているよ」と。こんなにも無関心層（無投票）を生んでしまった今の政治を、「政党が市民を追認する」、「政治は市民の希望なんだ」と、そういう雰囲気になるまで、市民と政党が繋がることを諦めるわけにはいきません。

「誰ひとりおいてきぼりにしない」という政治をめざし、メッセージを送り続けたい。

「ずっと平和を」「もっと安心を」北海道からもう一歩、先に進みたい。「地域のタカラを地域のチカラに」市民自治を確立し、確かな力にしたい。

まだ、始まったばかりです。次の野党共闘の大きな力に市民政治を追求し、挑戦していきたいと思います。

7月10日(日) 参議院での改憲発議2/3議席を阻止しよう!

『市民が主役』を後戻りさせない政治

「戦争させない北海道をつくる市民の会」の到達点とこれから

呼びかけ人 上田文雄



市民の会の活動がはじまったのは昨年2015年11月初旬のことだ。それまで市民自治や原発を含む環境問題、労働問題、子育て、そして教育問題など様々な市民活動に参加してきたものの、選挙運動にはほとんど経験のない市民たちが集まって語り合っていた。

半年後に迫った衆議院北海道5区補選で、何としても立憲主義にもとる政権与党に与する議員を一人でも減らせないか、と。憲法違反の安全保障関連法成立後初の国民による審判をする選挙として、また夏に行われる参院選の前哨戦としても、極めて大きな意味をもつことを強く意識した論議は白熱した。

「集団的自衛権を容認する閣議決定」が2014年7月1日になされ、あくる昨年5月には安全保障関連法案が衆議院に上程された。そして7月17日には衆議院を通過し、9月19日参議院でも可決成立。違憲立法が、あっという間に、かくも簡単に出来上がってしまった。

60年安保闘争以来の連日にわたる国会前集会、全国各地で国民的反対行動が行われ、市民たちはそれに参加もしたし反対署名もした。だが安倍内閣は歯牙にもかけない。「戦争ができない国」づくりにより安心と豊かさを保障してきた戦後の歴史が変えられようとしているとき、市民の会に集まった市民たちは最後に取りうる手段は選挙であり、国会を国民世論の反映の場にするしかないことに気付いた。

候補を立てよう、自分たちの。立憲主義の回復、安保法制(戦争法)を廃止に賛同する全て政治勢力・団体・個人が結集して勝利しよう。そのためには野党共闘で統一候補の擁立が必要不可欠との結論に至るのに時間はかからなかった。いったい誰を候補にするか。問題は政党を納得させるにたりの候補選定だった。

池田真紀氏に白羽の矢を立てた理由は次の4点だ。

①彼女の一途さに「立憲主義を回復する・安保法制に反対する」ことにブレることなく闘える人物と見込んだこ

と②彼女がエリートではないこと…国会はいつの間にか世襲やエリートの集団

と化し、国民世論から乖離する場になっていた③福祉の専門家として社会的弱者に寄り添う20年の彼女のキャリア…経済発展中心の新自由主義者に格差社会を是正する力はない④苦難を明るく乗り越えてきた彼女の人柄にこそ、政治に希望と活力を取り戻す力があること一。だから、池マキを市民たちは選んだ。

活動の軸ができ、池マキ本人の強い決意もあり、活動は盛り上がった。「市民の会」の仲介の形をとりながら、民主(民進)党と共産党が池田真紀氏を統一候補とする合意も成立した。「一強多弱」と呼ばれる政治状況下で野党勢力の地盤沈下は相当深刻な状況にあるが、危機意識を持った多くの市民が選挙運動に参加した。政党も市民とともに全力で闘った。その結果は、1万2000余票の差で惜敗した。

敗因分析は様々な観点からされているけれど、「市民の会」の活動成果ないしは今日的到達点を示すならば次のようになるのではないかと。政党の役割は民主主義において極めて重要であることはいままでもない。それは市民の意思を政治過程に反映させるシステムだからだ。しかし「支持政党なし」が多数を占める現状は、政党がその役割を果たしていないからだとはいえる。そのことに気付いた市民が今回行動を起こした。それは既成政党の体質の変革を求めてのことだったといえる。一般に市民活動に参加している市民は、選挙活動には比較的不熱心のように思われる。しかし今回ばかりは黙っている訳にはいかず、また池マキという逸材を得て弾みもついた。

市民が政治をそして政党の役割を学習し、政党が自らの存在根拠である市民の意思を学んだのが今回の選挙だったと思う。参院選における一人定員地方区32全てで野党統一候補が実現したことにはいささかかの影響を与えたとすれば、幸甚。日本の成熟した民主主義を実現するためにも、野党共闘がより深く広く展開されることを望み、「市民が主役」の選挙をもう一掘り二掘り追及する本番は、夏とともにやってきた。そして捲土重来の池マキ選挙も。

国政選挙で初めてと聞く野党統一候補の実現と、その戦いぶりは全国から注目され、多くの地域で活動市民団体を勇気づけたという。また政党も再生への一縷の光を今回の闘いに観たかにも見える。



五区補選での市民と野党の共闘の取り組みを振り返って

かわはらしげお（市民の風・北海道共同代表）



I 選挙では勝てなかったが、戦いでは負けなかった。

今回の衆議院五区補選で私たち市民と野党との共闘によって統一候補として擁立した池田まき候補は、残念ながら自公候補に一万二千票余の差で及ばず、勝利することはできませんでした。投票結果から見ると、選挙戦後半から危機感を強めた自公候補側は、あらゆる手段（ドブ板と締め付け）を使って組織票を固めるとともに、厚別・江別などの都市部でも一定の支持を広げて、前回までの票に上積みをしました。

しかし、本来自公候補が強い千歳市・恵庭市で、得票数を減らしたり投票率を下げているのは、安保法制の影響があったのではないかと思います。一方、池田候補側は、前回の衆議院選挙での民進党・共産党のほぼ合計の得票数を僅かに下回りましたが、出口調査の結果から見ると、民進党・共産党支持者の大半の票を固めたとともに、無党派層の7割の支持を獲得しています。このことは市民と野党の共闘による選挙スタイルが五区の有権者にも一定程度受け入れられたことの現れであるのではないのでしょうか。池田まき候補の強いメッセージは、反安保・反安倍の支持層だけでなく福祉子育て支援政策に共感する層の支持を広げたと思われますが、全体的な投票率が上がらなかったために、特に都市部での獲得票数が伸びなかったことの影響が大きかったと思います。

しかし、選挙当初は強固な地盤を受け継ぐ世襲候補の「吊い合戦」で圧勝・楽勝ムードであった自公候補に対して、安保法制への反発や怒りで立ち上がった市民の力で野党との共闘による統一候補擁立を実現し、市民と野党による新しいかたちの選挙戦の盛り上がりによって、一時は自公候補とほぼ肩を並べたのではないかとと言われるくらいに猛追しました。ダブルスコアで圧勝・楽勝といわれていた選挙を、ここまでの接戦まで持ち込んだこ

とで、彼らに冷や水を浴びせ、肝を冷やさせたことは間違いないでしょう。ある意味で、油断していた彼らを本気にさせてしまったのかもしれませんが。この五区補選で圧勝・楽勝し、その勢いで衆参同時選挙に持ち込み、改憲のための三分の二の議席を奪い取ろうという安倍政権側の当初の目論見（シナリオ）に、大きな打撃を与えたことは間違いありません。私たちは選挙では勝てなかったかもしれませんが、安倍政権との戦いでは負けていなかったと思います。

今回の五区補選で、市民が中心となって動いたことによって統一候補を擁立し、市民と野党との共闘体制を作ることが出来たこと、そして多くの市民が具体的な選挙活動に主体的・積極的に参加し、野党と一緒に選挙を戦うことが出来たということは、日本の民主主義の歴史において画期的・歴史的な取り組みであり、今後「北海道モデル」として日本の選挙における取り組み方のひとつの典型となるであろうと思います。

II なぜ選挙では勝てなかったのか？

このような画期的・歴史的な五区補選の戦いでしたが、なぜ私たちは勝利することが出来なかったのでしょうか。その第一の理由として、野党共闘の形成に時間（月日）がかかりすぎたということがあるでしょう。12月19日の池田さんの立候補表明から、市民が中心となって野党共闘と候補の統一を呼びかけましたが、政党間の思わくや事情などから協議がスムーズに進まず、2月19日の野党共闘成立まで二ヶ月もかかってしまいました。この時点で投票日まで残りわずか二ヶ月しかなく、選挙で市民と野党と一緒に戦う体制をしっかりと作ることが難しかったということがあると思います。

第二の理由として、市民による選挙活動と政党による選挙活動がうまくかみ合わなかったということがあります。今回の五区補選では、野党と市民による統一の合同選対本部を形成することは出来ず、それぞれが選対組織を立てて勝手連的に選挙活動に取り組むことになりました。何回か野党と市民による「合同選対会議」を開催して運動と政策の共有について一定程度の合意をはかりましたが、戦略と情報の共有という点では不十分でした。

また、今回は無所属での立候補ということで、特に民進党の側の組織的な動き



(運動)に難しさがあつたと思います。さらに市民や市民団体どうしの選挙活動もそれぞれバラバラとなり、効果的な連動をはかることが難しいところがありました。

第三の理由としては、市民による選挙活動が、五区の有権者の投票行動とうまくかみ合わなかったとことがあつたと思います。今回の五区補選での市民による自主的・主体的な選挙活動は、一定の盛り上げと賑やかしを作ることで間違いなく「風」を吹かすことが出来たと思いますが、それが五区の有権者の確実な投票行動につながる選挙活動となつていたのかという点での反省があります。今回、北海道の市民の活動に呼応して、市民連合やSEALDsなどの全国的な市民の動きとの連動が図られましたが、その動き本格化したのが「告示後」となつてしまい、公職選挙法による活動の制限や無所属候補であるが故の様々なハンデキャップなどもあり、そのような動きを効果的に展開することが難しいところがありました。そして何と言っても、そもそも選挙に関心が無い、選挙に行かない「無投票層・無関心層」を動かして投票率を上げることが難しかったということがあります。

Ⅲ この選挙で得ることが出来た成果と課題とは？

しかし、なによりも今回の選挙において、市民の取り組みによって野党共闘と統一候補が実現することが出来たということ、さらに、これだけの多くの市民が本気に



なつて具体的な選挙活動(集会・街宣・ポスティング・電話かけ・SNSなど)に主体的に参加したということは、数字では現すことが出来ない画期的かつ歴史的な体験であつたように思われます。選挙にかかわつた多くの市民が、選挙の勝利がかなわなかつたことは無念としつつも、「初めての経験でわくわくした」とか「楽しかつた、面白かつた、またやりたい」などなどポジティブに評価しています。

このような市民の体験は、これからの市民による政治参加の継続の上で非常に大きな財産になると思います。これらの成果を、これからの政治と選挙に、私たち市民と野党がどのように生かしていくのが最大の課題であるように思います。

5区補選の軌跡



2015年

- 9/19 安倍政権「戦争法」強行可決
- 11/ 5 「市民統一候補をつくる会(仮称)準備会」開催(札・市民ホール)
- 10 「戦争させない北海道をつくる市民の会」賛同の呼びかけ
- 13 「市民の会」賛同人全体会議(エルプラサ)
- 12/ 9 池田真紀さんに出馬要請
- 10 「統一候補要請」で各党訪問
- 14 「市民の会」呼びかけ人会議
- 16 高田健講演会(札・グランドセンター)
※池田さんの紹介とこれまでの経過を説明
- 18 第1回円卓会議(25団体30名出席)
- 19 池田まきさんが「市民の会」へ出馬を応諾(賛同人811名)

2016年

- 1/15 第1回選挙学校
- 16 「市民の風」キックオフ集会(札・市民ホール)

- 18 「市民の風・北海道」の政治団体届提出
- 27 「市民の風」会員の集い(エルプラサ)
- 30 ユニキタ等の薄野街宣(山口二郎氏等)
- 31 厚別区ポスティング(戦争させない1000人委員会)715,000枚と街宣車運行開始
- 2/ 1 第2回選挙学校
- 4 「市民の風」戦略会議
- 9 民主、共産の5区選対に共闘要請
- 「みんなで選挙に行こう」ビラ50,000枚のポスティング開始
- 12 「市民の風」ウェブ(IT)活用講座
- 13 池田まきネットワーク集会(ホテルエミシア)
- 18 民主、共産、市民の会が衆議院道5区補選の共闘と候補一本化の基本合意
- 19 共闘協定書調印式(札・教会会館)
- 22 第1回三者協議(民進党、共産党、市民の風)
- 27 3.5厚別市民集会記載「ほっかい新報号外」30,000枚ポスティング開始
- 29 第1回合同戦略会議(民主、共産、維新、社民、市民ネット、市民の風の6者)
- 3/ 4 民主党ビラ22,000枚ポスティング開始

- 5 池田まきと語る市民集会(厚別区民センター)
- 5区補選合同選対会議
- 12 野党各党と池田まきさんの街頭演説会(カプリー前)
- 13 市民の風作成チラシ(社会新報号外)40,000枚発注
- 20 緊急クロストーク「市民が政治を変える」(ホテルエミシア)

- 市民連合と池田さんの共闘調印式
- 21 野党女性議員合同演説会(イオン江別店)
- 26 自衛隊員・家族のための緊急電話相談(自衛官の人権弁護団・北海道)
- 4/ 8 政策合意のための円卓会議&5区補選合同選対会議(厚別区民センター)
- 10 池田まき・鳥越俊太郎街頭演説会(千歳グリーンベルトお祭り広場)
- 11 市民の風会員と市民の会賛同人部内決起集会
- 12 選挙告示日 第一声(イオン江別店前)
- 15 厚別中央公園集会
- 16 恵庭個人演説会(応援弁士亀井静香氏)
- 17 二見伸明公明党元副委員長・横路孝弘衆議院議員講演会(エルプラサ)
- 19 東京で緊急集会「北海道5区から野党共闘を全国へ〜」
- 22 プロジェクト「安倍政治をぶっ飛ばせ」街頭演説(佐高信、森啓、西ほなみ)
- 4/24 投票日

	投票率	池田	和田	得票差
厚別	58.64%	33,434	29,292	4,142
江別	59.42%	29,687	28,661	1,026
千歳	52.70%	14,439	25,591	-11,152
恵庭	58.69%	13,062	19,447	-6,385
北広島	59.17%	15,200	13,419	1,781
石狩	54.46%	13,133	13,103	30
当別	62.73%	3,902	5,023	-1,121
新篠津	71.61%	660	1,306	-646
計	57.63%	123,517	135,842	-12,325